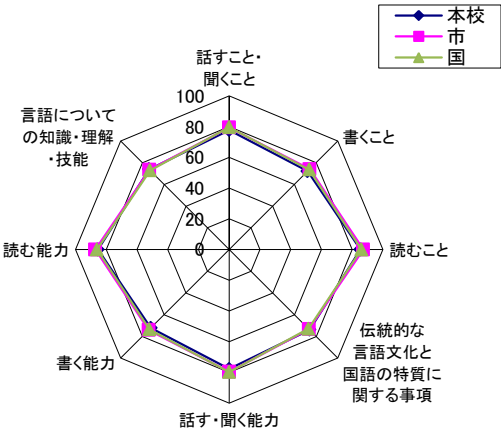


宇都宮市立陽東中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

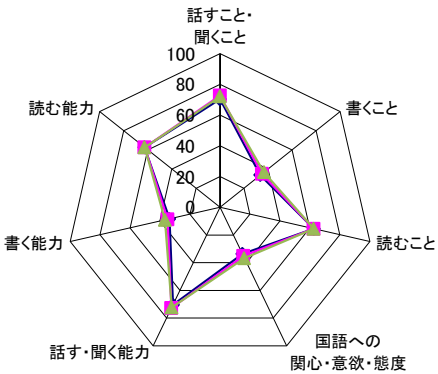
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	77.8	79.5	79.7
	書くこと	72.2	74.1	73.6
	読むこと	85.5	87.2	86.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.9	73.4	72.9
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	77.8	79.5	79.7
	書く能力	72.2	74.1	73.6
	読む能力	85.5	87.2	86.1
	言語についての知識・理解・技能	73.9	73.4	72.9



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	70.4	72.8	72.2
	書くこと	33.7	35.0	36.7
	読むこと	62.7	62.6	62.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	33.7	35.0	36.7
	話す・聞く能力	70.4	72.8	72.2
	書く能力	33.7	35.0	36.7
	読む能力	62.7	62.6	62.6
	言語についての知識・理解・技能			



★国語に関する質問紙調査の状況

○「国語の勉強は好きですか」の質問に対する本校の肯定割合は72.2%で、全国との比較で11.7ポイント高い。また、「国語の勉強は大切だと思いますか」の質問では、全国と比較して4.4ポイント肯定割合が高い。このことから、国語学習の意義を理解し、前向きに学習に取り組んでいることがわかる。さらに、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対する肯定割合が、国との比較で7.9ポイント高いことから、本校において分かりやすい国語の授業が展開されているとともに、本校生徒が普段の授業に意欲的であることが読み取れる。現在本校で行っている、学力向上のための取組を今後も継続し、さらに意欲を高め、学力の向上を目指していきたい。

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○相手の反応を踏まえて話すことは、相当数の生徒ができています。 ●聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話すことにやや課題がある。 ●話の内容に対する聞き方を工夫することに課題がある。	・スピーチなどの活動を行う際には、話の速度や音量、言葉の調子や間の取り方などについて、これまで学習してきたことを振り返るとともに、聞き手にとって分かりやすい言葉を選択して話すことが大切である。聞いただけでは意味の分かりにくい言葉や日常生活で使うことの少ない言葉などについては、聞き手の反応を踏まえて分かりやすい言葉に言い換えたり、説明を加えたりするように指導する。その際言い換えた言葉が文脈に沿った正しい表現になっているかなどを確かめさせることが大切であると考えられる。
書くこと	○書いた文章を読み返し、語句の選び方や使い方を工夫して書くことは、相当数の生徒ができています。 ○説明する文章の書き方の工夫として、具体的な事例を挙げて書くことについては、相当数の生徒ができています。 ●文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くことに課題があると考えられる。 ●目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くことに課題がある。	・根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く力を身につけるために、自分の考えの根拠が明確に書かれているかどうかを吟味するように指導する必要がある。その際、根拠となる内容が適切に取り上げられているか、接続語の使用や段落構成の工夫などによって、読み手に対してどの部分が根拠であるかが分かるように示されているかなど、文章を複数の観点から見直すように繰り返し指導することが重要であると考えられる。
読むこと	○登場人物の心情や行動に注意して読んだり、登場人物の言動の意味を考えたりして内容を理解することは、相当数の生徒ができています。 ○目的に応じ、中心となる語を捉えて読むことについては、相当数の生徒ができています。 ●複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えをもつことに課題がある。 ●文章と図とを関連付けて自分の考えをまとめることに課題がある。	・多様な情報に触れながら問題意識をもったり新たな発想を得たりする力を身につけるために、複数の本や資料から得た情報について、その真偽や適否を見極めるとともに、書かれている内容を自分と結びつけて考えるように指導する必要がある。また、学校図書館やインターネットなどを利用して、目的や意図に応じて主体的に情報を収集する学習活動を取り入れることも大切である。このような学習を通して、幅広く読書を行うことの意味を生徒一人一人が実感できるように指導することが重要であると考えられる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○文脈に即して漢字を正しく読むことは、相当数の生徒ができています。(袖、載る) ○毛筆を用いて楷書で文字を書くことは、相当数の生徒ができています。 ●文脈に即して漢字を正しく書くこと、語句の意味を理解し文脈の中で適切に使うことについては一部に課題がある。 ●単語の種別について理解することに課題がある。 ●漢字を正しく書くことに課題がある。 ●文の中における主語を捉えることに課題がある。	・言葉への関心を高め、言語感覚を豊かにするために、各領域の指導の中で、辞書等を使って生徒になじみの薄い語句や使用頻度の低いと思われる漢字などを積極的に調べる機会を意図的に設けて指導する必要がある。また、文脈に即した適切な言葉や、目的に沿った効果的な言葉について検討する学習も重要であると考えられる。

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの